

R 元年度病床機能報告結果に基づく定量的基準の設定について

1. R 元年度病床機能報告結果に基づく設定項目該当要件(しきい値)について

- ・要件については、以下のとおりとする。

病棟単位の月あたりの回数÷許可病床数=2.6以上

※平成 29～30 年度病床機能報告結果のしきい値は 2.4 以上

〈要件の設定方法〉

- ・急性期一般入院料 1～3（旧：一般病棟 7 対 1）の大半（概ね 75% 程度）が、重症急性期に区分される程度とする。

※上記算定式の結果、2.0～3.0 まで 0.1 ごとに比較検討し、「2.6」と設定。

※しきい値は年度ごとの治療実績により変更する可能性がある。

→より急性期的な機能を示す 49 項目のうち、いずれか 1 つ以上の要件を満たす急性期病棟は、重症急性期と整理する。

2. 基準について（参考）

1) 概要

- ・より急性期的な機能を示す治療項目と治療実績の要件を設定する。
- ・この基準を満たす急性期病棟は、便宜上、「重症急性期」（より急性期的な機能）と整理し、満たさないものは「地域での生活を支えるための急性期」（以下、「地域急性期」という。）と整理する。

2) 定量的基準を適用しない病棟について

以下の病棟については定量的基準を適用しないものとする。

- ・特殊性の強い病棟
 - ① 主とする診療科が以下の病棟
産科、産婦人科、小児科、小児外科
※混合病棟については主たる診療科で判断。
 - ② 緩和ケア病棟
- ・有床診療所

3) 定量的基準の抽出項目について

次ページの表のとおり、全 54 項目中 49 項目（※）を定量的基準として設定。

具体的な医療の内容	項目
3. 幅広い手術の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ① 手術総数 ② 全身麻酔の手術総数 ③ 人工心肺を用いた手術 ④ 胸腔鏡下手術 ⑤ 腹腔鏡下手術
4. がん・脳卒中・心筋梗塞等への治療状況	<ul style="list-style-type: none"> ① 悪性腫瘍手術 ③ 術中迅速病理組織標本作製 ④ 放射線治療 ⑤ 化学療法 ⑥ がん患者指導管理料 1 及び 2 ⑦ 抗悪性腫瘍剤局所持続注入 ⑧ 肝動脈塞栓を伴う抗悪性腫瘍剤肝動脈内注入 ⑨ 超急性期脳卒中加算 ⑩ <u>t-PA 投与</u> ⑪ 脳血管内手術 ⑫ 経皮的冠動脈形成術 ⑭ 精神科リエゾンチーム加算 ⑮ 認知症ケア加算 1 ⑯ 認知症ケア加算 2 ⑰ 精神疾患診断治療初回加算（救命救急入院料）
5. 重症患者への対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ③ 救急搬送診療料 ④ 観血的肺動脈圧測定 ⑤ 持続緩徐式血液濾過 ⑥ 大動脈バルーンパンピング法 ⑦ 経皮的心肺補助法 ⑧ 補助人工心臓・植込型補助人工心臓 ⑨ 頭蓋内圧持続測定（3時間を超えた場合） ⑩ 人工心肺 ⑪ 血漿交換療法 ⑫ 吸着式血液浄化法 ⑬ 血球成分除去療法
6. 救急医療の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ① 院内トリアージ実施料 ② 夜間休日救急搬送医学管理料 ③ 救急医療管理加算 1 及び 2 ④ 在宅患者緊急入院診療加算 ⑤ 救命のための気管内挿管 ⑥ 体表面ペーシング法又は食道ペーシング法 ⑦ 非開胸的心マッサージ ⑧ カウンターショック ⑨ 心膜穿刺 ⑩ 食道圧迫止血チューブ挿入法
8. 全身管理の状況	<ul style="list-style-type: none"> ① 中心静脈注射 ② 呼吸心拍監視 ③ 酸素吸入 ④ 観血的動脈圧測定（1時間を超えた場合） ⑤ ドレーン法、胸腔若しくは腹腔洗浄 ⑥ 人工呼吸（5時間を超えた場合） ⑦ 人工腎臓、腹膜灌流 ⑧ 経管栄養カテーテル交換法

※定量的基準の設定項目の追加

- ・現行の定量的基準は、高度急性期・急性期に関連する項目から、より急性期的な機能を示す48項目を抽出。
- ・令和元年度病床機能報告から、具体的な医療の内容に関する項目（報告様式2）に、新たにt-PAの投与が「がん・脳卒中・心筋梗塞等への治療状況」に加えられた。

t-PA：組織プラスミノゲンアクチベータのことで、脳梗塞の超急性期に投与し、血栓を溶解させることで治療効果が期待できる。

→脳梗塞に対する超急性期の対応の実績把握としてt-PAの投与の実施件数の報告が追加されたことを踏まえ、t-PAの投与もより急性期的な機能を示す項目として抽出。このため、抽出項目は1項目増え、49項目となる。

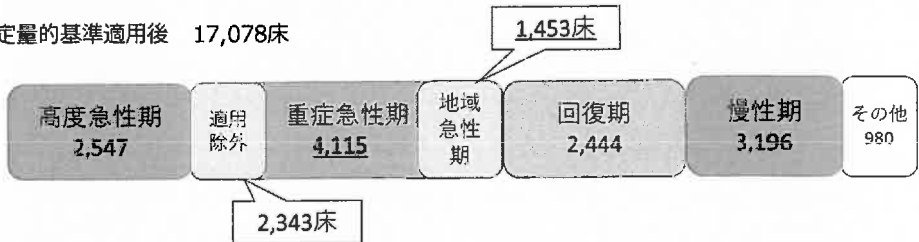
【R元年度病床機能報告結果に基づく結果について】

1 【岐阜県全体】 定量的基準の適用結果について

◆ 2019 (R1)年度病床機能報告 17,078床



◆ 定量的基準適用後 17,078床



◆ 2025(H37)年度必要病床数 14,978床

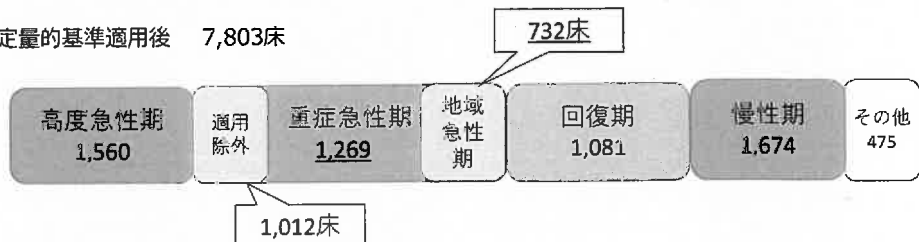


2 【岐阜圏域】 定量的基準の適用結果について

◆ 2019 (R1)年度病床機能報告 7,803床



◆ 定量的基準適用後 7,803床



◆ 2025(H37)年度必要病床数 7,074床

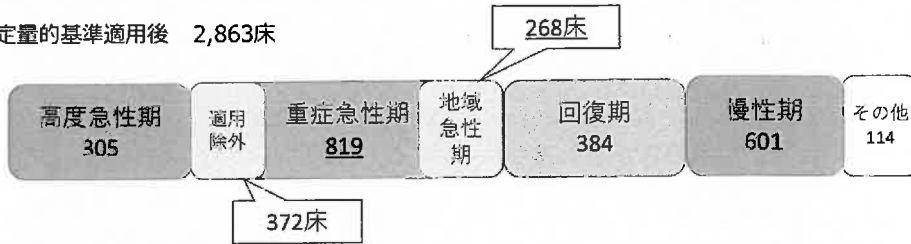


3 【西濃圏域】 定量的基準の適用結果について

◆2019 (R1)年度病床機能報告 2,863床



◆定量的基準適用後 2,863床



◆2025(H37)年度必要病床数 2,430床

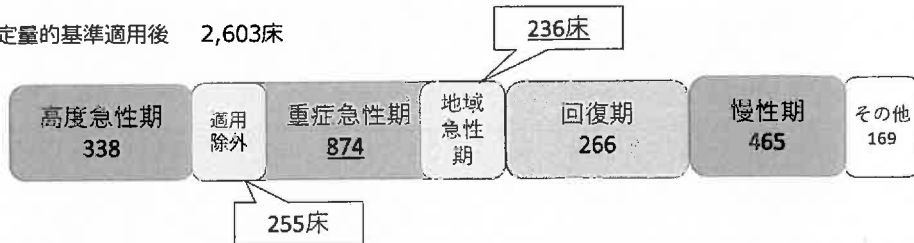


4 【中濃圏域】 定量的基準の適用結果について

◆2019 (R1)年度病床機能報告 2,603床



◆定量的基準適用後 2,603床



◆2025(H37)年度必要病床数 2,411床

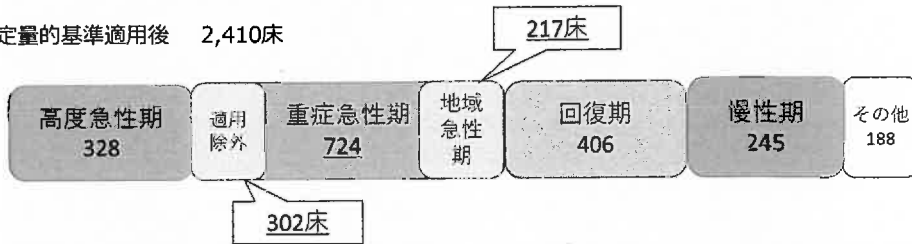


5 【東濃圏域】 定量的基準の適用結果について

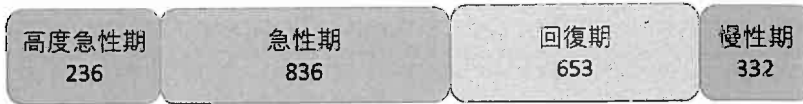
◆2019 (R1)年度病床機能報告 2,410床



◆定量的基準適用後 2,410床



◆2025(H37)年度必要病床数 2,057床

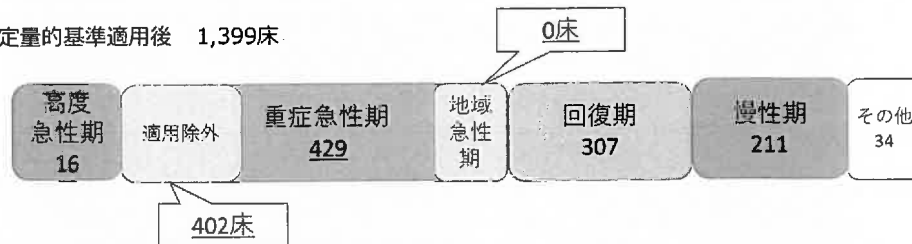


6 【飛騨圏域】 定量的基準の適用結果について

◆2019 (R1)年度病床機能報告 1,399床



◆定量的基準適用後 1,399床



◆2025(H37)年度必要病床数 1,006床



平成30年度及び令和元年度病床機能報告結果 比較

○許可病床

圏域	適用除外												重症急性期						地域急性期		
	小児科等						有床診						R1	H30	差	R1	H30	差	R1	H30	差
	R1	H30	差	R1	H30	差	R1	H30	差	R1	H30	差									
岐阜	194	354	▲160	465	100	365	353	423	▲70	1,269	1,472	▲203	732	929	▲197						
西濃	190	190	0	0	0	0	182	186	▲4	819	871	▲52	268	216	52						
中濃	180	281	▲101	0	0	0	75	93	▲18	874	986	▲112	236	154	82						
東濃	239	272	▲33	0	0	0	63	86	▲23	724	807	▲83	217	140	77						
飛騨	220	248	▲28	133	29	104	49	49	0	429	409	20	0	96	▲96						
合計	1,023	1,345	▲322	598	129	469	722	837	▲115	4,115	4,545	▲430	1,453	1,535	▲82						

○病床

圏域	適用除外												重症急性期						地域急性期		
	小児科等						有床診						R1	H30	差	R1	H30	差	R1	H30	差
	R1	H30	差	R1	H30	差	R1	H30	差	R1	H30	差									
岐阜	5	11	▲6	10	2	8	35	40	▲5	26	30	▲4	15	19	▲4						
西濃	4	4	0	0	0	0	13	15	▲2	17	17	0	5	4	1						
中濃	4	6	▲2	0	0	0	8	10	▲2	18	22	▲4	6	4	2						
東濃	6	7	▲1	0	0	0	4	6	▲2	15	16	▲1	4	3	1						
飛騨	4	5	▲1	4	1	3	4	4	0	8	8	0	0	2	▲2						
合計	23	33	▲10	14	3	11	64	75	▲11	84	93	▲9	30	32	▲2						